

亜細亜大学(国際関係学部入学定員:280人)

国際社会の平和と発展に貢献できる有為な人材育成を目指す国際関係学科と、多文化間の交流と協力を推進できる有為な人材を育成する多文化コミュニケーション学科の2学科を有している。

【構想の目的・育成するグローバル人材像】

企業人・社会人としての能力、異文化適応能力、外国語運用能力、社会科学の知識と応用能力を備え、現場で、特にアジア太平洋地域でアクティブに活躍できる<行動力あるアジアグローバル人材の育成>を目指す。

【構想の概要】

海外留学、就業体験、社会調査などの多様な国際経験を教育課程に導入し、産学協同によって実践する取り組みである。この留学を含む海外活動システムを確立するために、その基盤となる国際化に即したカリキュラムの効果的実行に取り組む。さらに<グローバル・ビジネスリテラシーアセスメントシステム>により、これら海外経験の成果を可視化し、その後のカリキュラム開発に活用する。

■ 教育課程の国際通用性の向上

国際的な標準言語である英語によるシラバスの整備、科目属性の識別マークであるナンバリング制度導入の準備・検討を行う。個別科目では、専門英語習得を目指し、「英語スーパーコース」を設置し、英語をツールとして使用する環境である「多文化インターンシップ」「多文化フィールドワーク」を新規に設置する。また、本構想に対しては、常に産業界の意見、要望を聴取し、プログラム内容の更なる充実を目指す。他方、学生のモチベーション維持、向上のために、教職員のみならずTA等を活用し、自発的学習進捗のモニタリング、ダイバーシティ教育を学生自身が自発的に運営できるような環境を創出する。

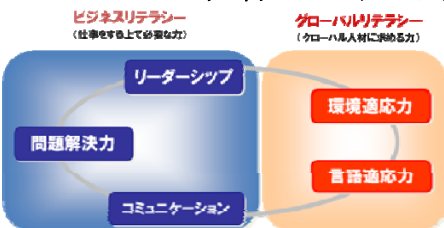
従来からの発信ツール「ホームページと大学広報紙」を利用するのは勿論のこと、SNS等を新規に利用し、各プログラム内容に応じて、その広報対象を絞り、効果的な広報活動を目指す。

構想実現のために、海外活動実施対象地域において、企業駐在員、JETRO等とのヒューマンネットワークを構築し、円滑な本事業運営を目指す。また、事務組織においては英語を中心とした外国語能力の向上を目指し、各種研修制度の充実をはかる。さらに、ネイティブ教員等の対応の為、規程集、学内表示の多言語化を図る。



(海外でのインターンシップの様子)

■ グローバル人材として求められる能力の育成



〈グローバル人材能力概念図〉

③外国語の実践的運用能力がある

国際語として使用される英語の最低限の運用ができ、さらに高度な英語力、当該地域の言語を運用できる。

④社会科学の知識を備え、それを活用して活躍できる

時代と社会のグローバルな動きに対し常に関心を持ち、考え、行動する為には、その基礎となる社会科学の知識を持ち、事象の分析力、論理的思考力を備えている。

<行動力あるアジアグローバル人材>育成のために、以下の能力の伸長を目指す。

①国内外の企業や地域で活躍できる現地体験と現地知識を有する

仕事の現場、地域の生活における問題解決のための情報収集、分析、創造的思考、チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション、規律や柔軟性などの総合的な力の必要性を知り、また、その能力を持つ。

②異文化コミュニケーションを円滑に行い現地に容易に適応できる

異なる文化への尊敬と理解、その違いを受け入れる柔軟性、人柄、そして何よりも異なる環境での生活に耐える身体とその管理の知識を持つ。

■ 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組

現在推薦入試等では、実用英語検定試験等の有級者、またそれと同等の得点を有している受験生に対して、通常受験生と比較して優位な評価を行っているが、トータルな英語運用能力が必要とされている現状を踏まえ、リスニングやスピーキングの試験導入に対する準備・検討を行う予定である。

TOEIC®での習熟度による英語クラス分け、自宅学習ツールとしてのEラーニングに加え、TA、教育支援要員をつけて英語習熟度の高い学生の更なる能力向上を目指す。また、アメリカ留学先を拡張し、国際クラスでの英語学習、ホームステイでの実践的な英語学習の環境を充実化させる。さらにアカデミック英語の習得を目指した英語スーパーコースの内容をさらに充実化し専門分野での英語能力向上を図る。また、英語以外の外国語では、多文化インターンシップ及びフィールドワークを強く意識し、各達成レベルを設定し、学生のモチベーション維持も含めた管理方法の確立を目指す。

■ 教員のグローバル教育力の向上

専門分野の教員採用に関しては、多言語による公募を継続し、低学年対象英語科目教員の採用は英語で行う。また、高学年用専門科目の多言語による採用を目指している。教員の研究環境に関しては、既存の研究制度の他、海外での在籍大学、研究機関での教育を奨励する。社会的ニーズの高い分野の専門教員採用においては、今まで以上に海外での経験に留意することとする。

グローバル教育力向上の観点から、学内でのFD活動は、学部日本人教員のみならず、外国人教員も交えて行ってきたが、今後は本学国際交流プログラムの海外提携大学、在外協賛企業などを交えてFD活動を推進する予定である。また、海外提携校に対しては、本学教員による現代日本に関する集中講義などを提案し、教員のグローバル教育へのインセンティブ向上のために、積極的に広報活動を推進する。

■ 日本人学生の留学を促進するための環境整備

WEB会議システムや情報端末等を利用し、留学中の学生との意見交換や、成果報告会を通し「ライブ感」を学生達に伝え、海外駐在経験者との語りを通じ、海外で生活することの楽しさ、グローバル人材になる為に必要な能力をいかに育成するかなどを理解させる。

留学中の学生に対しては、教職員が現地に赴き、直接指導する体制を整える他、WEB会議システム・i-pad等の携帯端末を利用し、学生の様々なカウンセリング、事前に設定した目標達成の進捗状況把握などを教職員と学生間で行う。また、本学独自の「グローバル・ビジネスリテラシーアセスメント」を利用し、蓄積データをキャリア支援担当部署と共有し、帰国後相当時間数を有していた準備時間を大幅に削減し、帰国直後の就職活動準備を可能とさせる。

卒業・修了時に学生が修得すべき具体的能力

(1)国内外の企業や地域で活躍できる現地体験と現地知識を有すること

以下のビジネスリテラシー：企業・地域に必要な姿勢、行動についての知識、経験、実践能力の素養。国際ルールやスタンダードを理解・遵守する規範意識や、倫理観、規律性。決断力、主体性、自律性、積極性。状況把握力、交渉力、チームワーク力。

(2)異文化コミュニケーションを円滑に行い現地に容易に適応できること

以下のグローバルリテラシー：外国での的確な状況把握能力、危機管理能力、異文化適応力、柔軟性、ストレス耐性、体調維持。

(3)外国語の実践的運用能力があること

TOEIC®700点の英語、実用レベルのアジア太平洋地域言語(韓国語/中国語/インドネシア語/ヒンディー語/アラビア語/スペイン語)＜英語スーパーコース学生：TOEIC®800点が目標/アジア夢カレッジ生：第1学年終了時、中国語検定3級、卒業時2級。＞

(4)社会科学の知識を備え、それを活用して活躍できること

国際関係に関する高度な知識の習得/外国諸地域や異文化に関する高度な知識の習得/情報の分析能力と発信能力

本構想において実現する達成目標

全学		2011	2012	2013	2014	2015	2016
外国語カスタンダードを満たす学生数				40人	70人	100人	110人
うち海外留学未経験者数 (A)				6人	6人	8人	9人
海外留学経験者数 (B)		255人	295人	255人	256人	291人	291人
卒業[予定]者数 (C)		264人	329人	280人	289人	324人	324人
比率 ((A+B)/C)				93.2%	90.7%	92.3%	92.6%
国際関係学部	卒業時の外国語カスタンダード	TOEIC® 700点以上		40人(6)	70人(6)	100人(8)	110人(9)
	海外留学経験者数	255人	295人	255人	256人	291人	291人
	3カ月未満	1人	1人	0人	0人	34人	34人
	3カ月～1年	254人	294人	255人	256人	257人	257人
	1年超	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	卒業[予定]者数	264人	329人	280人	289人	324人	324人

※1)「外国語カスタンダードを満たす学生数」の学部ごとの記入欄の()内は、外国語カスタンダードを満たす学生数のうち「単位取得を伴う海外留学未経験」の学生数を示す。

※2)上記の「海外留学経験者数」は、いずれも単位取得を伴う海外留学経験者数であり、単位取得を伴わない海外留学経験者は含まない。